

## 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	サービス創造学部	職名	教授	氏名	池田武俊
研究課題	サービス産業におけるイノベーションと人材に関する研究				
研究キーワード	サービス産業、イノベーション、人的資源、経営戦略	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究は、サービス産業におけるイノベーションとそれを担う人材の能力開発のあり方、それを効果的に行うためのマネジメントについて解明することを目的にしている。2021 年度は、幅広くサーベイ研究を実施した。本研究はサービス産業の固有性が現れるサービスの提供現場に注目している。とりわけ現場からのイノベーションを実現し、制度化していくための人材の能力開発に注目している。日本の工業力の向上において、改善活動などの現場からの知識創出が大きな力となってきた歴史があるが、これらの知見を今日のサービス産業にどのように援用することが可能であるか、これら領域の先行研究、イノベーション研究、ならびに経営学研究領域について網羅的に研究することを進めた。</p> <p>現在のコロナ禍は日本社会にとって大きな影響を及ぼしている。とりわけ本研究の対象であるサービス産業においては、その影響が著しく、採用抑制など人的資源への影響も出ている。ベッカーらの先行研究にあるように、企業特種的な能力をもつ人材は投資されて育成されなければならない。こうした人材がイノベーション創出の根幹である。しかし、コロナ禍の影響で、こうした人的資源への投資が抑制的になり、その影響が企業の競争力そのものに影響する可能性が高い。例えば、サービス産業の現場でとりわけ特徴的な要素である「対人への働きかけ」の能力も、高度な能力として育成されなければならないものであるが、こうした投資がコロナ禍でどのように影響を受けているのかは、リーマンショックなど過去の事例と比較検討しながら検討を進める必要がある課題である。こうした経営行動の変化が与える影響は単年では把握できないので、中期的に観察していく必要がある。</p> <p>これらの研究成果をもとに、一連の研究のさらなる深耕を目指す。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>郭潔蓉編著、池田武俊、渋瀬雅彦、三浦卓己、石橋美里共著 『ベーシック経営学』 ムイスリ出版。</p> <p>【学会発表等】</p> <p>3. 主な経費</p> <p>研究上必要な書籍、学会費の支出、PC の購入に使用した</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p>					

(本文は2ページ以内にまとめること)